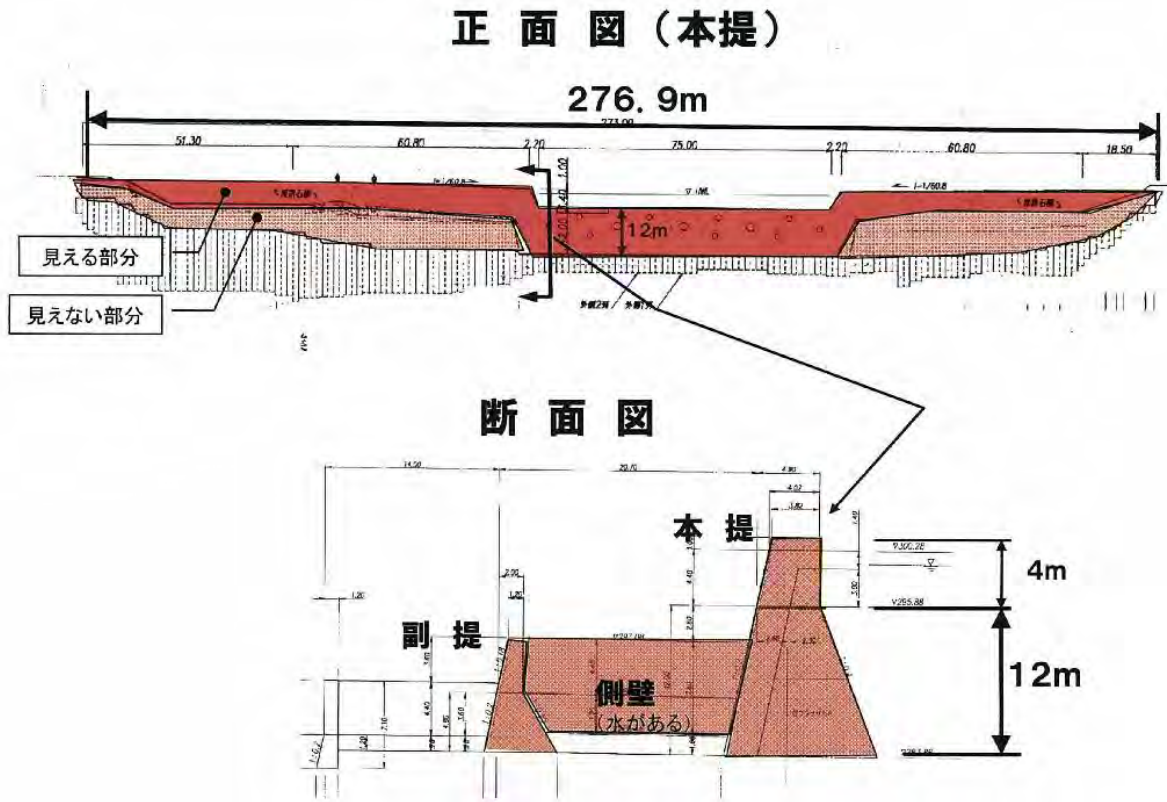


もがみ しらかわ さぼう えんてい  
最上白川砂防堰堤

所在地	最上郡最上町大字法田字堰ノ上
河川名	最上川水系最上小国川支川最上白川
砂防指定地の指定	昭和27年8月18日 建設省告示第1146号
施工年	着工：昭和27年、竣工：昭和32年 (補強・改築 着工：平成3年、竣工：平成9年)
流域面積	42.6 km <sup>2</sup>
計画高水流量	845 m <sup>3</sup> /sec
ダム形状	高さ12.0m、長さ276.9m、立積16,353 m <sup>3</sup>
貯砂量	1,038,700 m <sup>3</sup>



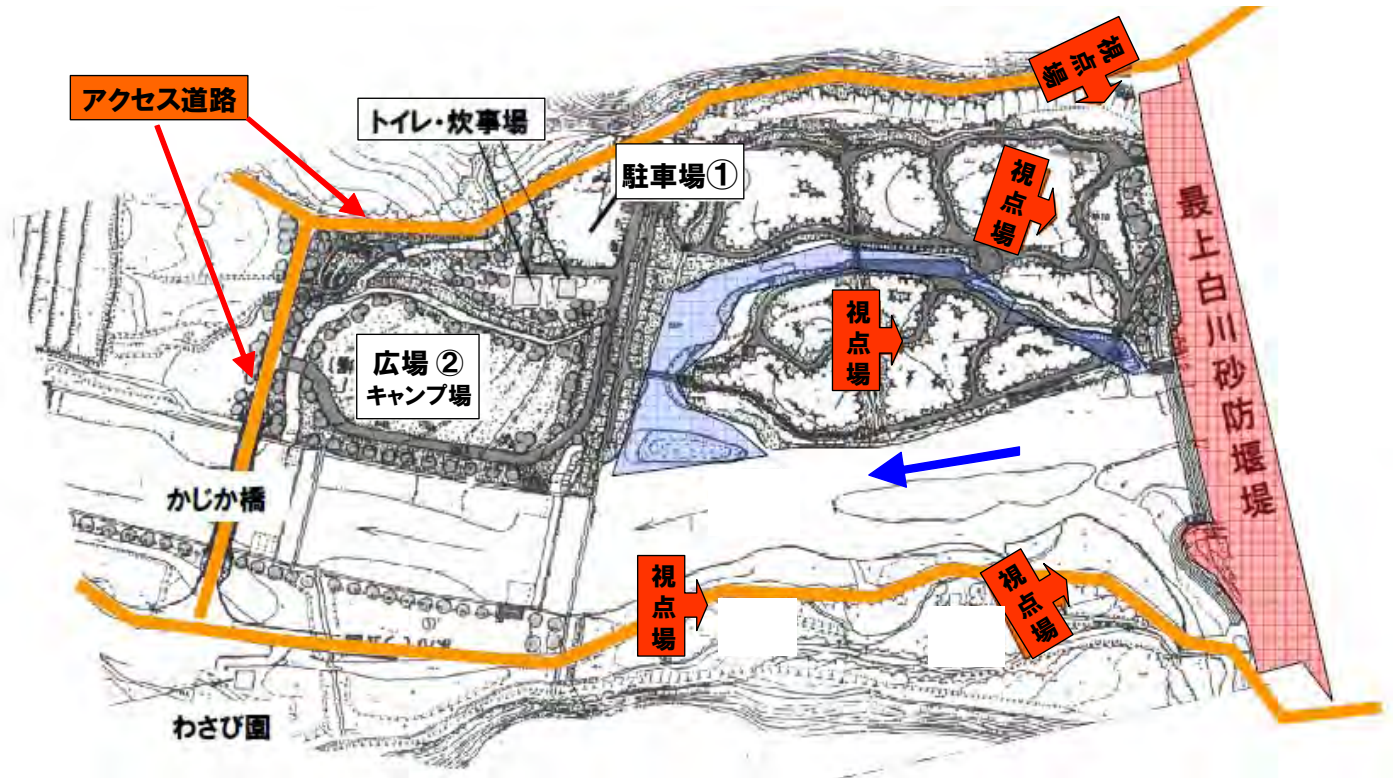
(1) 景観重要建造物の形状



(2) 景観重要建造物へのアクセス



(3) 参考資料



駐車場①

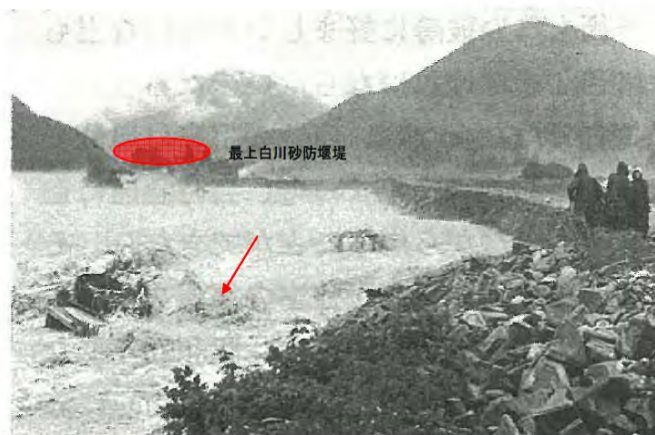


広場②



歴史的背景

水害状況写真（昭和初期）



砂防堰堤下流状況写真（竣工し、その後河川改修）



- 砂防堰堤竣工時の記録によれば、（詩集「石ころ」資料より）
- ・ 217町歩 (ha) が被害から救われ、300町歩が豊富な灌漑を受けた。
  - ・ 新たに150町歩 (ha) 造成、橋梁5箇所、水害家屋20戸が救われた。
  - ・ 下流域の人々の生命、財産が守られ、荒廃していた土地の有効活用が進み、生活の安全と安定が確保されることになる。



この工事を有名にしたのは  
全国に先駆けて創設された  
**「産業開発青年隊」**の献身  
大変な苦勞、血と汗と涙の結晶・・・「砂防堰堤」

## 「産業開発青年隊」とは？

- 戦争が終わって、地方や農村へ膨大な人口が移動し、人口過剰状態になった。  
(大陸からの引き揚げ者、復員軍人、都会の失業者など)
- この流れの中で、仕事も食料も居場所もなくなった、いわゆる「次男、三男」がいた。
- 自分の将来を真剣に考えた青年達は、当時の総合開発事業(土木工事)に働く場所を求めて運動をはじめた。昭和28年国が取り上げた。
- 建設省補助・・・「産業開発青年隊」(土木従事者)  
• 農林省補助・・・農村建設青年隊(農業従事者)

白川砂防堰堤工事は、**県内初の実習場。**

### • 青年隊の精神・・・自主的、創意工夫による「人づくり」

厳格で徹底した訓練(共同生活、勤勞、学習・教育)

18歳～25歳、4月入所し11月終了、8時間労働、1日250円(食費120円)、修養時間1,444時間(6科目)



## 生活詩集「石ころ」の意義と堰堤

- 自分自身を省みて、自分の考えを明確にする生活記録
- ものごとを深く考え、生き方を考える記録
- 自分たちは、石ころのように転がっている悲しい宿命の記録
- この地は、人生の出発点、必死に生き、社会に灯をともしたい・・・その原点。必死に叫ぶ姿の記録。
- 石ころが堰堤の「形」へ。郷土への愛情、希望と力へとつながる。
- 「砂防堰堤」は、まさしく、**血と汗と希望への結晶。**



## • 青年隊の功績

- 下流域の人々の生命、財産が守られ、荒廃していた土地の有効活用が進み、生活の安全と安定を確保。
- 青年隊が、このような防災機能などの郷土開発に尽くした功績は極めて大きい。
- その後、県内各地(乱川、野川、立谷川など)に広がり、山形県の産業発展につながっていく。

## • 全国一の成績(全国17)

### ・・・大臣表彰 2回受賞

工事能力の高さ+全国一の学力成績+模範的生活+詩集「石ころ」の周囲への良い影響

